

ただいま  
活動中

# 語りの会「どっこいしょ」

## 子ども達とつくるお話の世界

むしば

### 蝕まれていく“ことば”の世界

若い人達の話すことばが、どんどん短く少なくなってきました。ことばはゲーム・アニメなどの映像や、メールの絵文字に取って代われ、その領域をどんどん狭められてきているのでしょうか。ユニークな造語を使いこなす一方で、自分の気持ちや意見をきちっと相手に伝えられずに悩んでいる若者が多いと聞き、気になるところです。そこで今回は、絵本や音楽などを一切用いず、人が語ることばだけでお話の世界を伝える“語り”のボランティアグループ・語りの会「どっこいしょ」のおはなし会を訪ねてみました。

### 想像力の翼をひろげたら

夏休みも終わりに近づいた土曜日、四日市市立図書館内の「おはなしの部屋」は、お話好きの子ども達とそのお母さん・おばあちゃん達でいっぱいになりました。靴をぬぎ、洞穴のような部屋の中でぐるりと輪になって座ると、四人の語り手が1話ずつお話を始めます。この日のお話は、「赤いろうそく」「ならなしとり」などの4話でした。どこかで聞いたことのあるような懐かしさを感じさせるリズムカルな語り口で、一人ひとり子どもの目を見ながら話す様子は、まるで囲炉裏を囲んで昔話をしているようです。主人公達が沼の主に食べられそうになったり、蛇にまきつかれたり、危なくなると、子ども達の目が急に真剣になり、うまい具合に危機を脱すると、ほっとその表情が緩みます。



この会は、1988年にストーリーテリング講座の受講者によって発足。下記月例会の他、保育園、幼稚園、小学校、学童保育、子ども会、老人ホームなどでも活動中。

第1土曜日 15:00～ : 北部児童館  
第3土曜日 15:00～ : あさけプラザ  
第4土曜日 14:30～ : 市立図書館

※無料、日時は各施設へご確認ください。  
【連絡先】 0593-32-1044 (加納豊子)

「こんな素敵なものがあるのか。ストーリーテリング(語り)講座で初めて先生の“語り”を聞いた時そう思いました。絵も音楽もなにもないから、かえって自由に想像を膨らませることができて、頭の中に次々と絵が浮かんでくるんです」「語り手のことばが聞き手の心に触れて、想像力の翼が広がり、聞き手の表情が語り手の心を動かす。語り手と聞き手、みんなでお話の世界をつくり上げていくのです」。このように“語り”の魅力について話してくださった語り手の皆さんにとっては、そんな一体感が得られた時、本当にやりがいを感じるのだそうです。

「“語り”は年齢に関係なく楽しめますので、小さなお子さんだけでなく、もっといろいろな年齢のお子さんに聞いていただければと思います。回を重ねるごとにお話を聞くセンスが磨かれ、自由に広がる想像の世界で、きっとアニメやゲームでは体験できない楽しさを味わうことができると思います」。この会の代表加納豊子さんの言葉に、この日の子ども達の姿がだぶります。加納さんが言うところの、お話を聞くセンスや想像力は、そのまま子どものコミュニケーションの力も伸ばしてくれるように感じました。



●市立図書館では、このおはなし会のほかにも、下記の日程で「絵本のよみきかせ」や「おはなし会」をおこなっています。

第1土曜日 14:30～ 耳をすませて 中井千保子(読みきかせ)  
第2土曜日 14:30～ 絵本ライブラリー 中井千保子(読みきかせ・ブックトーク)  
第3土曜日 14:30～ 絵本の読みきかせ 「中部読みきかせサークル」  
第3水曜日 15:30～ おはなし会 四日市おはなしの会「赤とんぼ」

※日時は、市立図書館にご確認ください。52-5108  
52-5109



「どっこいしょ」さんのお話はどこか懐かしくて心地よい…。童心にかえってお話を聞いていたら、育児疲れも忘れ、なにかやさしい気持ちになれました。